

3年生の皆さん、卒業おめでとう。

新型コロナウイルス感染症による様々な制約がなくなり、3年生にとっては、松山東高校の学校行事を改めて新鮮に感じた一年になったことと思います。皆さんは、二年間の経験を糧にしながら、創意工夫を凝らして、最高学年として、大いに東高を盛り上げてくれました。おかげで、活気あふれるすばらしい学校行事ができたと思います。

そうした頑張っている先輩方の姿に触れることで、よい伝統が受け継がれ、さらには、時代に合ったことを取り入れながら、アップデートされた松山東高校ができあがっていくのです。1、2年生の皆さん、次は、皆さんの番です。

生徒会誌の巻頭に当たって、私が日頃よく考えている、「言葉のおもしろさ」について、述べてみたいと思います。

一つめは、「おしょくじけん」。あるとき、ラジオで、「おしょくじけんで逮捕された」というアナウンスを聞き、頭の中で漢字変換がうまくできず、「お食事券で逮捕とは？」と一瞬思いましたが、すぐに「汚職事件で逮捕」と理解しました。ただし、「お食事券で逮捕」もあり得る話かもしれません。同じ音でも、全く違う意味があって、言葉はおもしろい。もう一つ、「きせいをあげる」。試合の前に、円陣を組んで声を出し合う「氣勢」は勇気づけられますが、「奇声」が響きわたるのはあまりいいこととは思いません。

二つめは、「議論が煮詰まる」。この言葉の意味は、「①考えや意見などが出尽くして結論を出す段階になる」「②考えや意見などがこれ以上発展せず行き詰まる」のうち、どちらでしょうか。正解は①です。間違っ<sup>て</sup>使っている人も多いのではないのでしょうか。このほかにも、「国語に関する調査（文化庁）」によると、「<sup>無</sup>然」（×腹を立てている様子 ○失望してぼんやりしている様子）、「おもむろに」（×すぐさま ○ゆっくりと）、「しおどき」（×ものごとの終わり ○ちょうどいい時期）などは、本来の意味が定着していないという結果になりました。言葉は移り変わるものだから、間違っ<sup>て</sup>使う人が多数派になると、辞書の意味も変わってくるかもしれません。

言葉はおもしろい、言葉は変化する、もう一つ言いたいことは、言葉は重い。SNSをきっかけに、まだ会ったことのない人と約束をして出かけていったきり、行方が分からなくなった、事件に巻き込まれた、また、SNSによる匿名の中傷や軽率な言葉が、非常に重い事態をもたらすと、いうことが現実<sup>に</sup>起こっています。

SNS社会で生きていく皆さんには、言葉を使う自分の責任の重さを自覚し、さらに、言葉の奥に潜むもの、言葉の本質を見抜く力を持ってほしい。私もメールを使いますが、どんなときでも、どんなことでも、自分の発する言葉には、とても気を遣っています。自分の言葉が、自分の本意でないところで、人を傷つけているようなことがあってほしくないからです。

これから皆さんが生きていくのは、先の見通し<sup>が</sup>つかない世界です。コロナ禍で経験したように、何が起<sup>こ</sup>るか何が正解か、わからないまま、その中で、よりよい方法を模索していかなければならないという場面が多くなってくるでしょう。高齢化や情報化に「超」が付く社会になり、加えてAIの台頭、天災の発生、そしてコロナのような未経験の状況の中で、私たちにできるのは、人間らしく、言葉で思いを伝え合い、共有し、より多くの人<sup>が</sup>納得できる解決策を探<sup>す</sup>ことです。言葉の持つ重みを知ることは、ますます重要になってくると思います。

卒業生の皆さんへ。松山東高校で、三立を目指して多くの経験を積んできた皆さんは、卒業後も、目標に向かってしっかりと歩みを進めていくこと<sup>で</sup>しょう。そして、他者との協働が避けられない社会の中で、身に付けた「言葉の力」を発揮して、粘り強く、みんなが納得できる解決策を探<sup>し</sup>ていってほしいと願います。皆さんなら、それができると確信しています。

卒業おめでとう。皆さんのますますの活躍を祈っています。